

一般入試後期日程

英語

I

■出題のねらい

レストランでの会話を題材とした日常的な会話問題です。平易な会話文の理解および前後の文脈から未知表現の推測や適切な空所挿入語の選択が行えるかどうかを問いました。

■採点講評

[3]の正答率が50%強、[6]の正答率が30%弱と低めの結果でした。[3]は③、④で解答が分かれていましたが、正答の④を選ぶためには直前の表現に惑わされず、前後の文脈を正しく理解する必要があります。[6]は4つの選択肢にはほぼまんべんなく解答が分かれていましたが、正答となる“right away”は「すぐに」という意味で、口語表現でもよく使われます。ぜひ覚えておきましょう。

II

■出題のねらい

架空のリゾート地の観光スポット案内を題材としています。表形式の短い英文を利用し、情報を獲得できる基本的な英語の読解力および文法的な判断に基づく空所補充の可否を問いました。

■採点講評

後半2問の内容理解に関する問題は80%以上の正答率でしたが、前半3問の語彙や文法を問う問題（特に[7]、[8]）で40%程度と低めの正答率となりました。[7]は「これまでに見つかっている・観察されている」という意味での“recorded”「記録されている」が正答となります。[8]は「ツアーガイドが専門的な知識を提供する」ということですが、「ツアーガイドは情報を提供する側」なので現在分詞が正答です。

III

■出題のねらい

この部分は、著作権法上の都合により、掲載を省略します。

■採点講評

この部分は、著作権法上の都合により、掲載を省略します。

IV

■出題のねらい

「どの国が最も幸せと考えるか」という書き出しで始まる長文を題材にし、多様な出題形式による総合的な英語力を問いました。

■採点講評

[20]、[22]が正答率70%を超えたため、他の設問で点数の差がつかしました。正答率が50%を切ったのは[17]、[18]、[26]の各設問でした。また、2つを選ぶ[24]、[25]についても正しく2つとも選べた人は30%以下でした（因みに、この設問の正答としていずれか1つを選べた人は約50%でした）。[17]は4つの選択肢に解答が散らばりましたが、単語の意味を問うのではなく語法として問うています。なぜ正答が③になるかは疑問詞そのものの理解に加え、疑問詞を使った英文をどれだけ見慣れているかで決まります。[18]の“attitude”は受験者の皆さんにも見慣れた単語のはずですが、表面的な意味だけをとりえると間違えることを想定して出題しています。この手の単語問題には注意が必要です。[26]については、直前に出てきた意味だけでなく、文章全体での意味を正確に把握しないと正答は導けません。

V

■出題のねらい

科学者パスツールと狂犬病について書かれている平易な英文を題材としています。最初の3問は一見すると並べ替え問題の体裁ですが、 unnecessary 語を1つ選ぶという出題になっていますので文脈を正しく理解しなければ正答することはできません。

■採点講評

最初の3問でうまく英文を組み立てられない人が多かったです。それぞれの下線部を正しく並べ替えながら考えてみましょう。

[27]は“the only man who she”となり、“her”が外れます。次に多かった選択肢は“she”でした。これは“she thought”という形が後ろにつながる挿入の形になっていることが見抜ければ並べ替えの手掛かりになったでしょう。

[28]は“not be seen even under”となり、“find”が外れます。選択肢としてはこれを選んだ人が一番多かったですが、他の選択肢を選んだ人も見受けられました。“could”の後だからまず“find”を入れてしまい、その続きがなくなっていくケースが多かったのではないのでしょうか。文脈からの判断が必要な設問でした。

[29]は“devoted his life to solving”となり、“cure”が外れます。“to”の後だから動詞の原形をと考えた人が多かったのかもしれませんが、“cure the problems”とはいえません（「問題」は「解決する」ものであって、「治療する」ものではありません）。ここでは“devote 物₁ to 物₂”で、「物₁を物₂に捧げる」という語法です。